Integra
R E S E A R C H

7 チャンネルアンプ

RDA-7

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも
見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。

隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



オーディオ機器の正しい使いかた

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

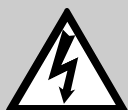


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

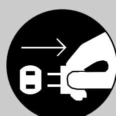
絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

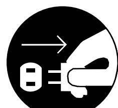




●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告(つづき)

■ 故障したままの使用はしない



電源プラグをコンセントから抜いてください

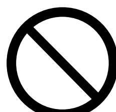
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に、裏ぶた、カバーははずさない、改造しない


分解禁止

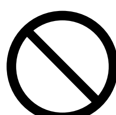
- 本機の裏ぶた、カバーは絶対に外さないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧や船舶などの直流(DC)電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

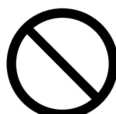


- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

■ 水のかかるところに置かない


水場での使用禁止

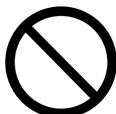
- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。


水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

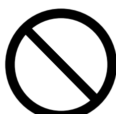
オーディオ機器の正しい使いかた

■ 水の入った容器を置かない



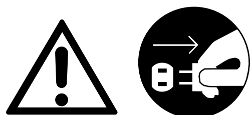
● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない



● 本機の通風孔から金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら



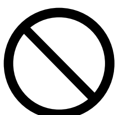
電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、機器の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない



● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



電源プラグをコンセントから抜いてください

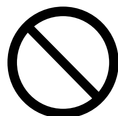
● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因になります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

（次ページへ続く）

オーディオ機器の正しい使いかた

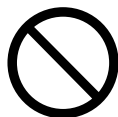
⚠注意

■ 設置上の注意



- 強度の足りない台やぐらついたり傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- この機器は非常に重いので、持ち運びは必ず二人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



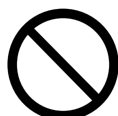
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



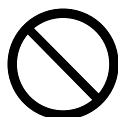
- 本機を他のオーディオ機器、テレビ等の機器に接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意



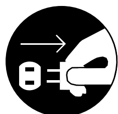
- 電源を入れる時には音量(ボリューム)に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

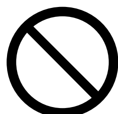
■ 電源コード、電源プラグの注意(つづき)



電源プラグをコンセントから抜いてください

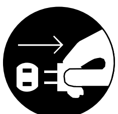
- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて



- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

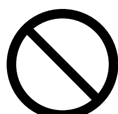


電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をおすすめします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除・点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。



- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

特長

- ■ 優れたエンジニア力で入念に創作されたハイエンド・オーディオ製品を生産し、無類の忠実度と精度での音楽再生に定評のある、米国バランスド・オーディオ・テクノロジー社による設計
- ■ THX® Ultra認定
- ■ THXサラウンドEX対応（7チャンネル）
- ■ 低ネガティブフィードバック設計により、最適なS/N性能と優れたダイナミックレンジを実現
- ■ XLR（バランス）入力により、周波数特性、ダイナミックレンジ、および長いケーブル使用時の安定性を向上
- ■ 信号の着色を最小限に抑え、アンプの音の中立性を高める、3つのゲインステージ構成
- ■ スピーカーを選ばず最高の性能を引き出す高電流ドライバーステージ
- ■ 最新のハイレゾリューション音源の利点を余すことなく実現するワイドレンジ設計
- ■ 大型の高品質デュアル1kVAトロイダルトランス

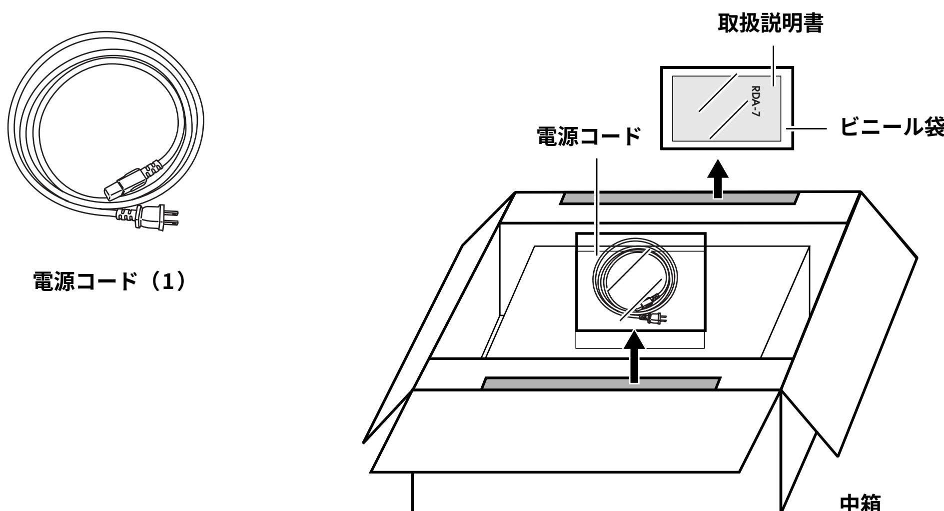
* Balanced Audio Technology はバランスド・オーディオ・テクノロジー社の商標です。
* ルーカスフィルム、THX、THXロゴ、THX Ultraは、ルーカスフィルム社の商標です。

THX Ultra

THX　Ultraの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX　Ultraのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX　Ultraの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX　Ultraレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術を備えています。

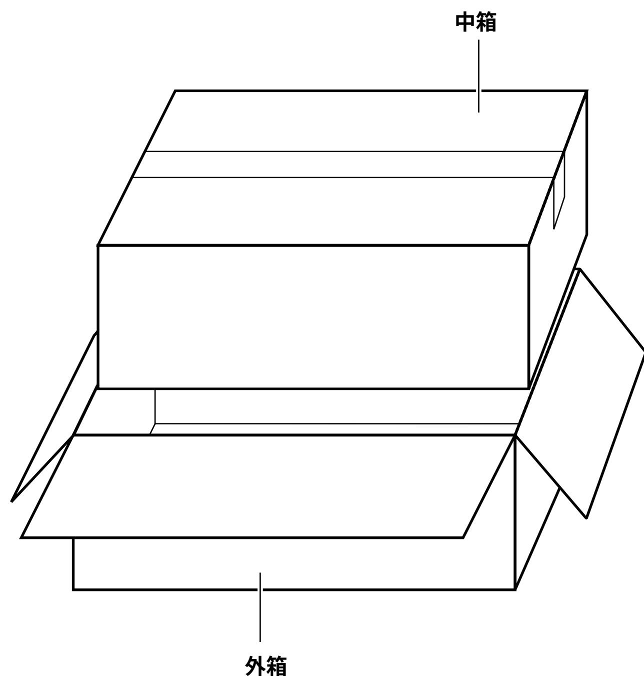
付属品

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。（　）内の数字は個数を表します。



電源コード（1）

付属品と梱包材を確認する



開梱するときは

ダンボール箱に入っている物をすべて取り出し、付属品と梱包材がそろっているか確認してください。

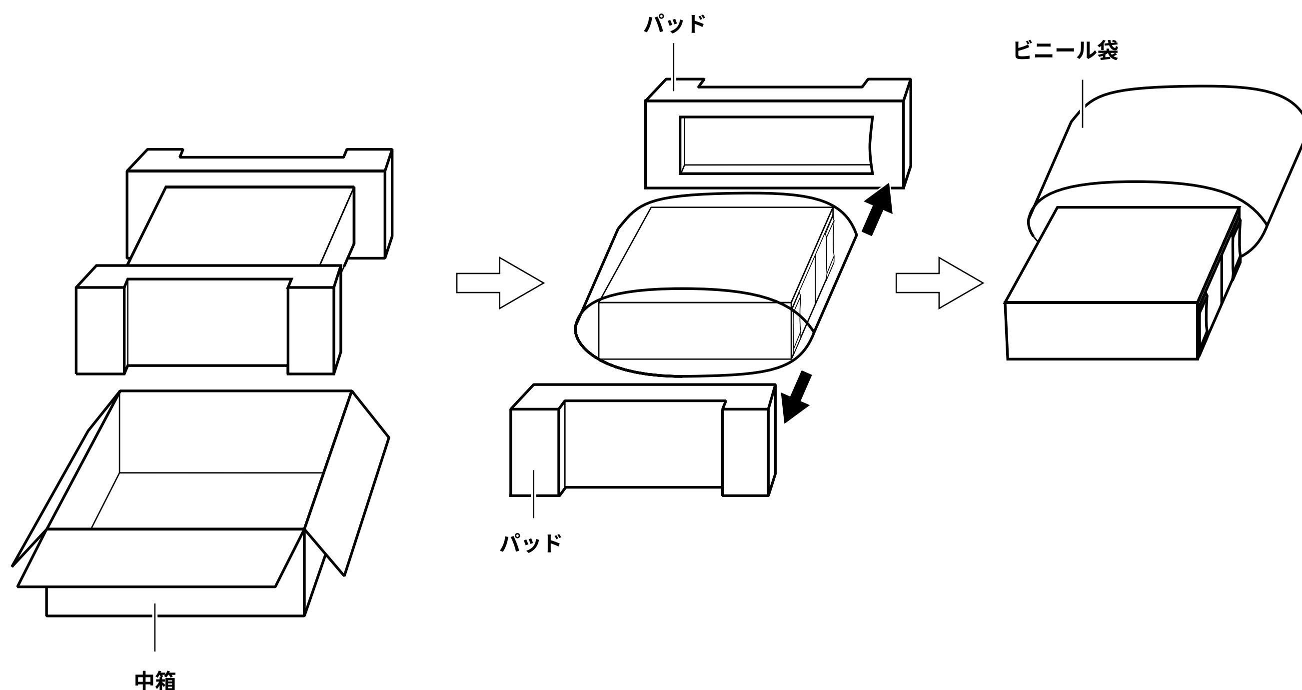
本機を取り出したら

輸送途中で損傷を受けていないか、まず製品を注意してお調べください。もし異常があったときは、すぐにお買い上げ店または当社サービスステーションにご連絡ください。

保管について

ダンボール箱は捨てずに保管しておいてください。

後日、本機を移送するときは、必ず出荷時の梱包材をご使用ください。本機は非常に重いため、間に合わせの梱包材などで移送すると、破損や事故の原因となることがあります。指定以外の梱包材を使用して破損や事故が起きても、当社は保証できません。



使用上のご注意

本機をお使いになる前に、「オーディオ機器の正しい使いかた」（3〜7ページ）と併せて、下記の注意事項もよくお読みください。

電源コードについて

付属の電源コード以外は使用しないでください。付属の電源コードは本機のために特別に設計されたもので、他の機器には使用できません。

警　告

本機の電源コードを接続する時は、14ページ以降の説明をよくお読みください。

AC ヒューズ

本機のヒューズを取り外した状態で、絶対に電源コードを接続しないでください。

接続するスピーカーについて

スピーカーはインピーダンスが4Ω以上のものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。

通風について

本機はハイパワーアンプのため、温度がかなり上昇します。通風孔は絶対にふさがないでください。本機の上に物を乗せたり、他のシステムコンポなどを積み重ねて置くなどして通風孔をふさぐとと、放熱が妨げられ、故障の原因となります。

お手入れ

フロントパネル、リアパネル、カバーは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなどは使用しないでください。傷がついたり、文字が消えたりすることがあります。

引火性または可燃性の洗剤も使用しないでください。

その他

次のことは絶対にしないでください。

- 入力ジャックまたは入力ケーブルの先端を指で触れて、通電を確かめるようなことは絶対にしないでください。感電の危険性だけでなく、スピーカーの故障の原因となります。
- 出力端子どうしを短絡させないでください。
- カバーを外したり、カバーを外したまま本機を操作しないでください。
- 爆発性のある気体の中で本機を操作しないでください。
- 小さな子どもの手の届く所に設置しないでください。

雷が鳴ったら

本機の電源プラグに触れないでください。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

本機を設置する

本機の過度な温度上昇を防ぐため、通風や設置場所については、十分配慮してください。本機の過度な温度上昇は、他の接続機器の故障の原因ともなります。

通風について

本機をご家庭で普通に使用するときは、本機の温度上昇は温かくなる程度ですが、低インピーダンスのスピーカーで大音量の再生を行っているときなどは、通常よりかなり熱くなります。そのような場合は、アンプの性能が、過度な温度上昇によって損なわれることがあります。

過度な温度上昇を防止するには、空気の流れを良くして、放熱をすることが大切です。

ご注意

- 本機を空気がこもりがちな狭いラックや、押し入れには入れないでください。
- 本機を暖房機や温風ダクトなどの外部熱源から離して設置してください。
- 本機の上に他の機器等を重ねて置かないでください。
- 本機のカバーには換気用の孔があり、内部の温度上昇を防ぐように設計されています。これらの換気孔は絶対にふさがないでください。

キャビネットに収納する場合は、キャビネットのリアパネルの上下に換気口を開け、通風をよくするか、ファンを使って空気を循環させてください。
目安としては、音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱すぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

設置する場所と空間

本機は非常に重い製品です。設置する場所の床や、特にキャビネットやラックに収納する場合は、重さに耐えうるだけの強度があることを必ず確認してから設置してください。

本機の背面には、電源コードをはじめ、その他の接続ケーブルのための適切な空間が必要です。これらのコード/ケーブル類を無理に折り曲げたり、重要な力をかけたりせずにすべてのケーブルを収納するには、8センチメートル以上の空間が必要です。

早見操作ガイド

ここでは、接続と操作の流れを説明します。

実際に接続や操作をするときは、次ページ以降の説明も必ずお読みください。

下記の内容は、ソース機器とコントロールアンプ（プリアンプ）の接続など、システムの他の接続が完了している場合の手順です。

最高の音質を実現するために

本機は、アンプの性能を最大限に引き出すため、出力部にDC保護回路などのリレーを使用していません。そのため電源投入時、内部回路が安定するまでの間に各チャンネルからノイズを含んだ信号が出力されることがあります。通常は、音質が安定するまで、電源を入れたまま音を出さずに15分以上放置する（プリヒート）することが必要です。電源投入後、30分以上経過して内部回路が安定してから、音楽や映画をお楽しみいただくことをお勧めします。

1. コントロールアンプのボリュームを下げる

突然大きな音が出るのを防ぐため、音量は絞っておいてください。

2. スピーカーを本機に接続する

スピーカーケーブルを使って接続します。

各ケーブルの極性（＋）/（－）は正しく接続してください。接続を間違えると、定位感が損なわれたり、位相が逆になったりします。

3. INPUT SELECT（入力切り換え）スイッチで、XLRコネクター（バランス入力端子）またはRCAコネクターを選ぶ

プリアンプと本機を接続するケーブルのタイプに合わせて切り換えます。本機には各チャンネルごとにXLRコネクターとRCAコネクターがあり、ケーブルのタイプやコントロールアンプの機能に応じて切り換えることができます。

ご注意

電源を入れた状態でINPUT SELECTスイッチを切り換えないでください。

4. コントロールアンプを本機に接続する

手順3で選んだ入力方式に合わせて、プリアンプの出力を本機の対応する入力端子に接続します。

ご注意

もう一方の入力端子には何も接続しないでください。

5. 付属の電源コードを本機と壁コンセントに接続する

プラグはしっかり奥まで差し込んでください。

6. POWERスイッチを押す

このスイッチを押すと、Onインジケーターが青く点灯します。12V TRIGGER IN端子にケーブルを接続している場合は、接続する機器の電源オン/オフに連動します。Standbyインジケーターが赤く点灯している時は、信号待機状態です。

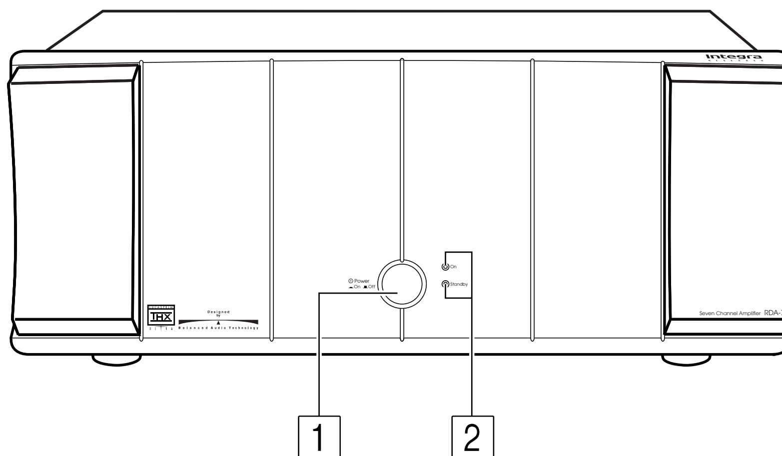
7. コントロールアンプのボリュームを徐々に上げる

ご注意

POWERスイッチを押したあと、出力が安定するまで約9秒かかります。その間はボリュームを上げないでください。

以降の操作については、プリアンプおよび接続機器の説明書をご覧ください。

フロントパネルの名称と働き



1 Power On / Off スイッチ（主電源）

本機の電源を入れます。このスイッチを押すとOnインジケーターが青く点灯します。音が出るまで9秒程を要します。

12Vトリガーで本機を操作するには、接続する機器の12V TRIGGER端子と本機の12V TRIGGER IN端子を接続し、本機のPowerスイッチをOnにします。

例えば、AVコントローラーRDC-7と接続して本機を操作するときは、RDC-7の12V TRIGGER A端子と本機の12V TRIGGER IN端子を接続します。

12V TRIGGER IN端子にケーブルが接続されている場合：

12Vトリガー信号が来ている場合は、Onインジケーター（青）が点灯します。

12Vトリガー信号が来ていない場合は、Standbyインジケーター（赤）が点灯します。

2 On/Standby インジケーター

PowerスイッチがOnのとき、どちらかのインジケーターが点灯します。

On（オン）： このインジケーターが青く点灯しているときは、本機の電源が入った状態で、演奏が可能です。

Standby（スタンバイ）： このインジケーターが赤く点灯しているときは、12Vトリガー端子からの信号待機状態です。

ご注意

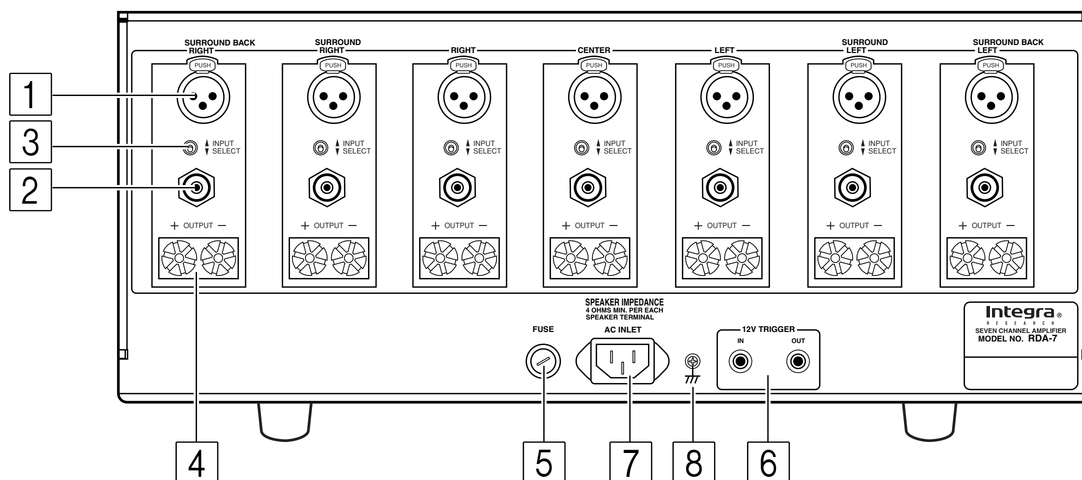
PowerスイッチがOnのとき、どちらのインジケーターも点灯していない場合は、本機の電源コードが正しく接続されているか、あるいはヒューズが切れていないか、お確かめください。それでも点灯しない場合は、電源を切り、電源コードを外してお買い上げ店またはオンキヨーサービスステーションへご連絡ください。

また、Onインジケーター（青）が点灯していて、Standbyインジケーター（赤）が**点滅**している場合は、本機の保護回路が働いています。スピーカーコードがショートしたり本機の温度が上昇しすぎると保護回路が働きますので、その場合は一度電源を切り、原因を取り除いてから再び電源を入れてください。それでも改善されない場合は、電源を切り、電源コードを外してお買い上げ店またはオンキヨーサービスステーションへご連絡ください。

リアパネルの働きと接続

ご注意

- 電源コードは、他のすべての接続が終わるまで接続しないでください。
- 接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。
- 電源を入れた状態（Power ▬ On）で入力端子または出力端子に接続することは絶対におやめください。
- 電源を入れる前に、必ずコントロールアンプ（プリアンプ）のボリュームを完全に絞ってください。



接続上の注意

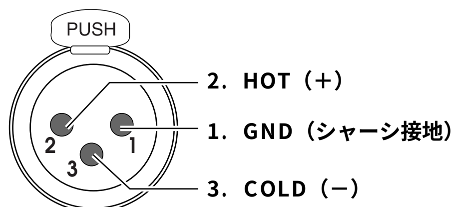
本機は7チャンネルの独立したパワーアンプで構成されており、各アンプはそれぞれの入力信号に対して、同じ音質と同じ性能を実現します。ご使用の際には、各チャンネルに音声信号を入力し、スピーカーを接続してください。使用しないチャンネルには、音声入力およびスピーカーを接続しないでください。

1 バランス入力端子（XLRコネクター）

バランス出力端子を持つコントロールアンプを接続します。

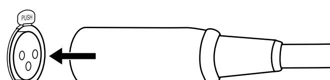
ピン配列は次のとおりです。（AES規格準拠）

接続時は、コントロールアンプの説明書をご覧になり、出力端子のピン割り当てが本機に対応していることをご確認ください。対応していない場合は、出力ピンが対応する入力ピンに正しく接続されるように配線してください。



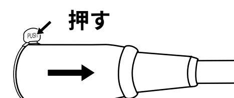
出力端子にケーブルを接続する

ピンの位置を合わせてカチッと音がするまで端子を差し込みます。ケーブルを軽く引っ張り、完全に接続されているかどうか確認してください。



出力端子からケーブルをはずす

コネクターのボタンを押しながら、矢印の方向にケーブルを引っ張ります。



ご注意

- バランス接続にするときは、INPUT SELECTスイッチをバランス端子側に切り換え、高品質のケーブルを使って、コントロールアンプと本機を接続します。
- RCAタイプの音声入力端子には、何も接続しないでください。

2 音声入力端子（RCAタイプ）

RCA出力端子を持つコントロールアンプを接続します。

ご注意

- この接続をするときは、INPUT SELECTスイッチをRCA側に切り換え、オーディオ用ピンコードを使って、コントロールアンプと本機を接続します。
- バランス入力端子には、何も接続しないでください。

3 INPUT SELECT（インプット セレクト）（入力切り換え）スイッチ

各チャンネルの音声入力端子を選を選びます。

ご注意

- 電源を入れた状態では、入力を切り替えないでください。
- 選択していない方の入力端子には、何も接続していないことをお確かめください。

4 OUTPUT（音声出力）端子（スピーカー出力とバインディングポスト）

本機は、スピーカーシステムへの出力端子として、ハイバインディングポストを装備しています。本機の音質を最大に引き出すには、高品質のスピーカーケーブルを使用することをお勧めします。

各チャンネルの－（マイナスまたは黒色）出力ポストと、スピーカーの－（マイナスまたは黒色）入力端子を、＋（プラスまたは赤色）出力ポストと、スピーカーの＋（プラスまたは赤色）入力端子を接続します。

下記の手順で接続してください。

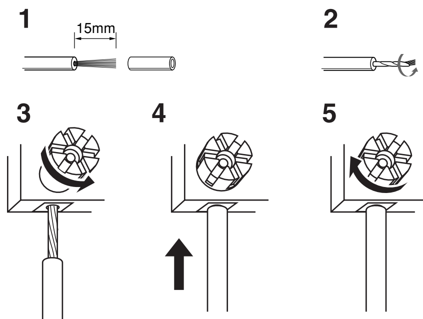
1. スピーカーコードの被覆を15mmカットする

2. しん線の先端をしっかりよじる

3. ねじをゆるめる

4. しん線を差し込む

5. ねじを締め付ける



次ページの「スピーカーの位相合わせについて」、「スピーカーの定格」も併せてご覧ください。

ご注意

- この端子に、スピーカー以外の機器を接続しないでください。また、出力端子は絶対にショート（短絡）させないでください。
- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが4Ω以上のものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- スピーカー端子に複数のスピーカーケーブルを接続しないでください。故障の原因となります。

5 FUSE

本機には、250ボルト15アンペアのACスローブロー型メインヒューズがついています。交換する場合は、ヒューズの溝にコインなどを当てて、左へ回して外してください。

ヒューズは、同じタイプの同じ容量のものをご使用ください。

警　告

ヒューズを交換したり電気的な接続を行ったりする前には必ず電源を切り、電源コードを抜いてください。

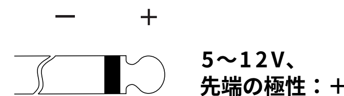
6 12V TRIGGER IN/OUT端子

RDC-7など12V TRIGGER出力端子を持つコントロールアンプなどと12V TRIGGER IN端子を接続します。トリガーは、5～12Vの直流電流です。本機の電源スイッチが▬Onのとき、コントロールアンプ側で本機の電源を操作できます。

本機の12V TRIGGER IN端子に接続して他の機器の電源を連動させたい場合は、本機の12V TRIGGER OUT端子と、その機器の12V TRIGGER IN端子を接続します。このとき、本機の電源が切れていても、信号は本機を通って12V TRIGGER OUT端子へ出ていきます（スルー）。この端子を使って、数珠つなぎに接続することが可能です。

接続には、ϕ3.5mmのモノラルタイプミニジャックをお使いください。

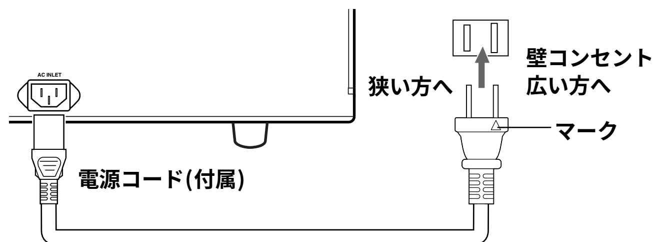
ミニジャックの先端の極性は下記のとおりです。



7 AC INLET（AC電源入力）コネクター

付属の電源コードを本機のAC INLETコネクターに接続してから、壁コンセントに接続します。

- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。



- 電源コードは、壁コンセントに接続した状態で本機のAC INLETコネクターから抜かないでください。感電する恐れがあります。電源コードは、接続時には最後に壁コンセントに接続し、抜くときは最初に壁コンセントから抜いてください。
- 電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの△マークのついている方を家庭用の電源コンセントの溝の広いほうに合わせて差し込んでください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。

8 GND接続端子

他の機器と接続してハムなどのノイズが出たときは、この端子と接続した機器のアース端子をリード線でつなぐと改善されることがあります。

スピーカーを接続する

まずお手持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。また、接続については、15ページの 4 の内容もお読みください。

サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。

スピーカーの位相合わせについて

スピーカーが正しく接続されていない場合は、位相が逆になって違和感を感じたり、定位が不明瞭になったりすることがあります。

正確なバスレスポンスを得るためには、すべてのチャンネルが同相で接続されていなければなりません。単音の旋律に対して、スピーカーがユニゾン（同相）で振動していれば、正常です。逆相の場合は定位（楽器や歌い手の位置）が不明瞭になったり、違和感を感じたりします。

そのような場合は、ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。ケーブルによって、色分けされていたり、片側にマークがついていたり、片方の線に色がついていたりしますので、それらを目印にして、本機の赤（＋）のバインディングポストはスピーカーの（＋）の端子に、黒（－）のバインディングポストはスピーカーの（－）の端子に接続されていることを確認してください。すべてのチャンネルが同じように接続されていることが必要です。

スピーカーの定格

本機は、適正レベルを超える電力レベルでも、低インピーダンスのスピーカーを問題なく駆動できます。公称4Ωが定格となっている多くのスピーカーシステムのインピーダンスは、特定の周波数レンジで多くの場合2Ωまで低下します。その場合も、極端に音量を上げない限り、問題は発生しません。

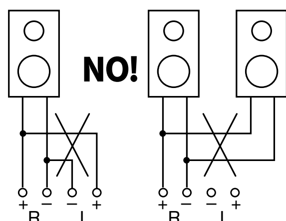
しかし、本機の出力能力はきわめて高いので、スピーカーシステムの入力電力に対する最大定格をチェックすることが重要になります。スピーカーの損傷を避けるため、スピーカーの定格電力は、対応するインピーダンスでアンプの出力定格電力（4Ω）以上であることを確認してください。

ご注意

本機の定格を下まわる定格のスピーカーシステムをご使用になった場合は、スピーカーシステムや接続機器に故障が生じても当社では責任を負うことはできません。

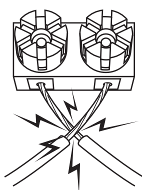
ご注意

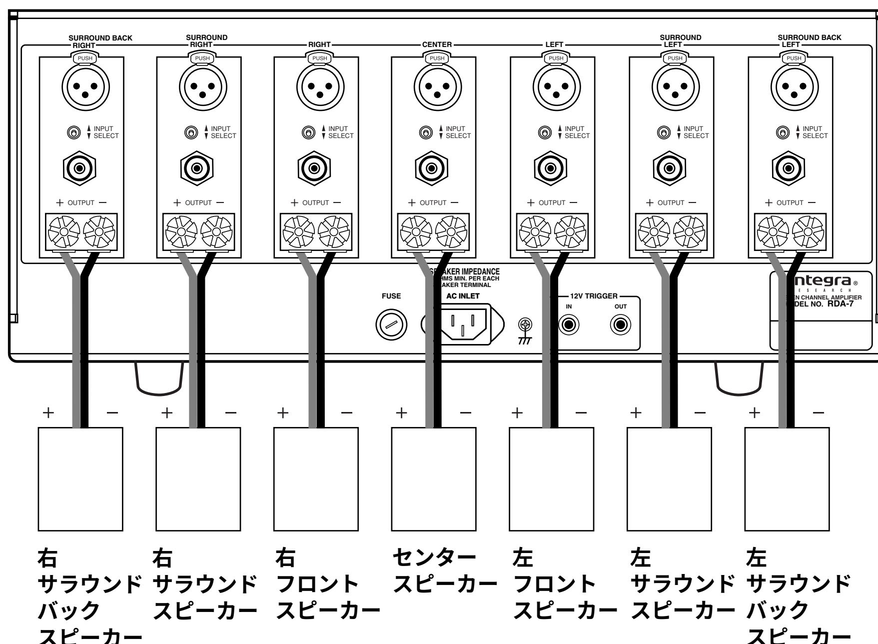
1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合は、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。





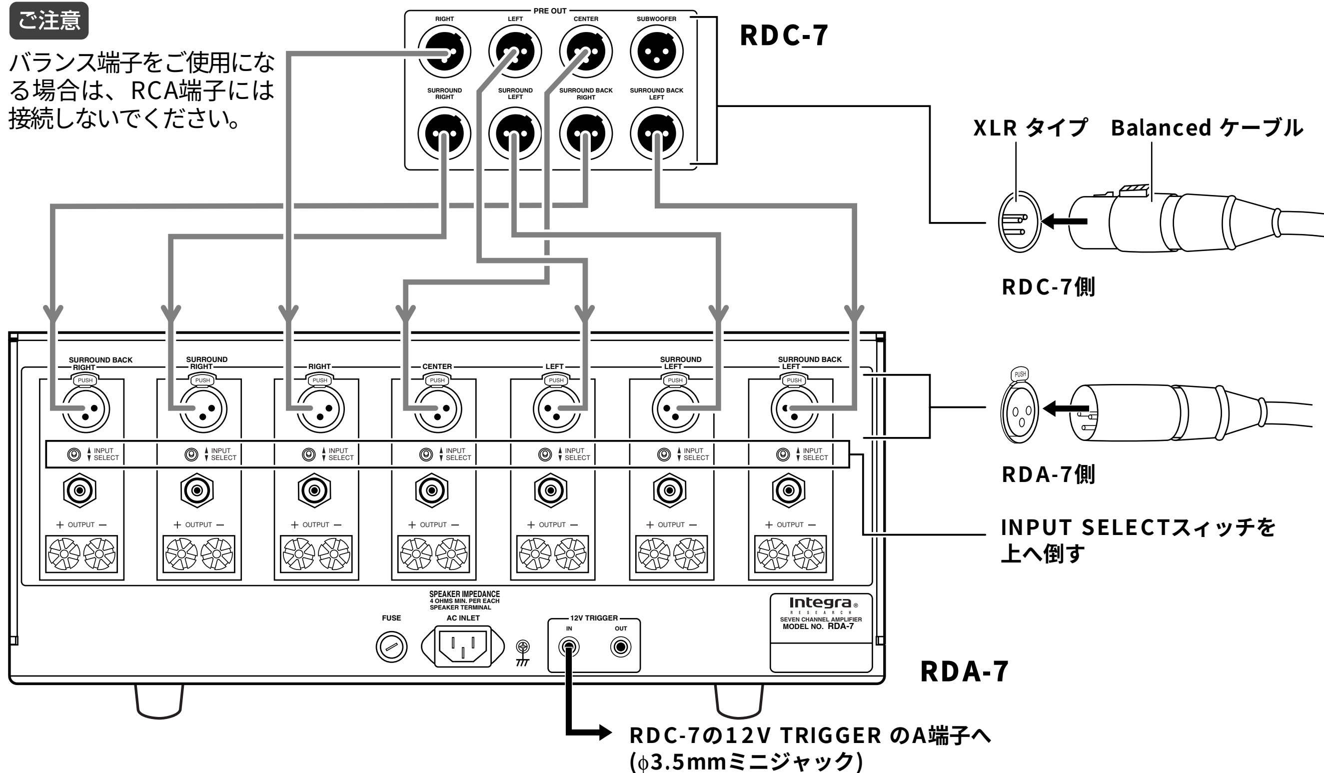
RDC-7を接続する

下図は、別売りのAVコントローラーRDC-7と本機の接続例です。

バランス端子の接続

ご注意

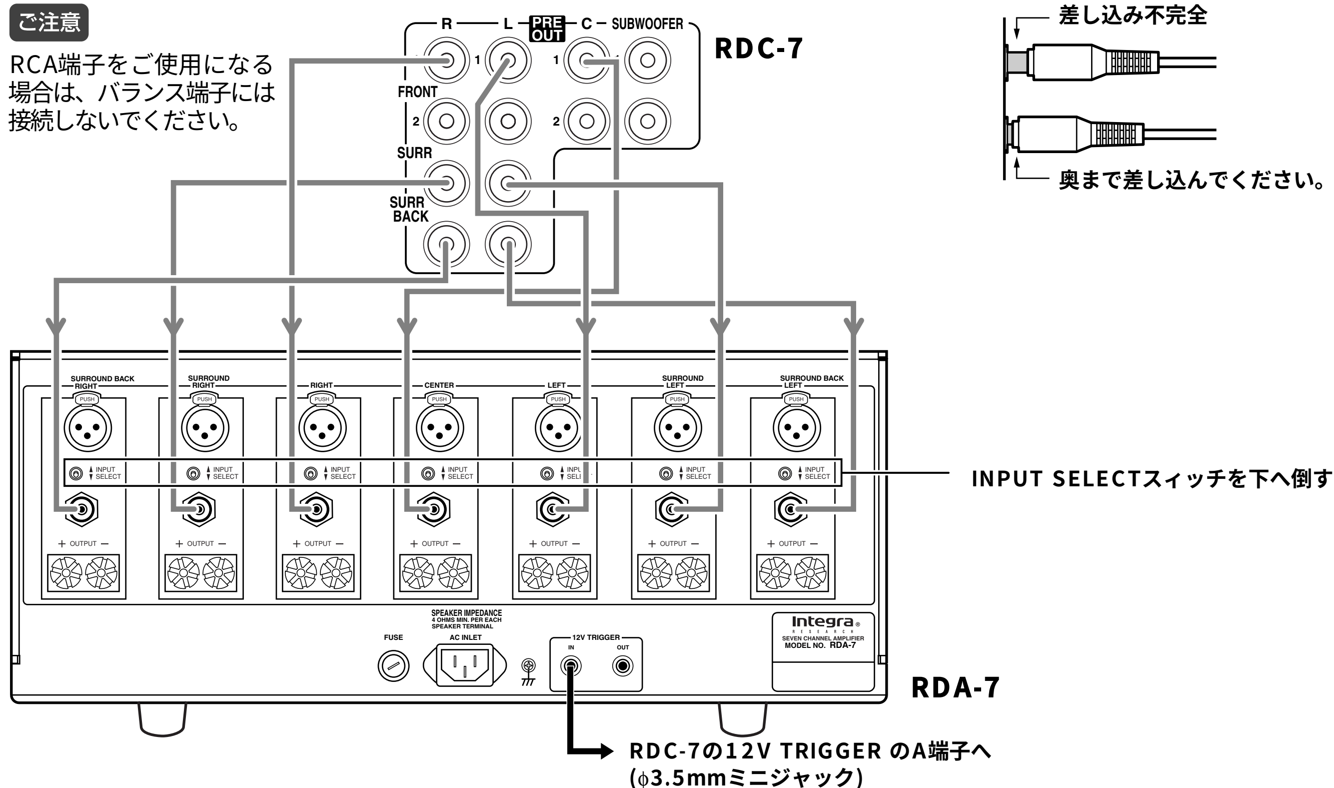
バランス端子をご使用になる場合は、RCA端子には接続しないでください。



RCA端子の接続

ご注意

RCA端子をご使用になる場合は、バランス端子には接続しないでください。



故障？と思ったときは

本機が、正常に動作せず、サービスをお申し付けになる前に次のようなチェックをしてください。これらの処置をしても直らないときや、これ以外の症状のときは、電源コードをコンセントから抜き、「おところ」「お名前」「電話番号」「セット型名RDA-7」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。

1.　電源は入るが音がでない

- スピーカーコードが正しく接続されていますか。
- 入力コードが接続されていますか
- プリアンプからの信号が来ていますか。
- 入力切り換え（INPUT SELECT）スイッチが正しい位置にありますか。
- Standby（スタンバイ） インジケーターが点滅している場合は、本機の保護回路が働いています。その場合は、スピーカーコードがショートしていたり、本機の温度が上がりすぎている可能性があります。いったん電源を切り、原因を取り除いてからご使用ください。

2.　ハム、その他の雑音が入る

- 入力コードはピンジャックやコネクターにしっかり挿入されていますか。
- 電源コードや電源トランスから発する雑音が入力コードに入って雑音がでることがあります。入力コードをそれらに近づけないようにしてください。
- ピンコードと電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねると、ハムや雑音の原因となることがありますので、束ねないようにご注意ください。
- 各チャンネルの入力端子にはバランス端子かRCA端子のどちらか、使用するほうのみを接続し、切り換えスイッチをそちらへ切り換えてください。

仕様

定格出力

全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）

8Ω　150W（20Hz～20,000Hz）
全高調波歪率：0.08%以下

4Ω　300W（1,000Hz）
全高調波歪率：0.1%以下

混変調ひずみ率： 定格出力時で0.05%
1W出力時で0.05%

ダンピングファクター： 8Ω負荷時で40

入力感度/インピーダンス

バランス：200mV/47kΩ

アンバランス：100mV/47kΩ

周波数特性

3.5～250kHz、－3dB

■ 一般仕様

使用電源： AC100V、50/60Hz

消費電力： 1050W (電気用品取締法規格)

外形寸法： 450(幅)×195(高さ)×596(奥行)mm

質量： 51.0kg

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

オンキヨーサービス網のご案内

万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談ください。

■製品の故障や修理についてのお問い合わせは、下記へどうぞ。

修理をご依頼になる前に、
取扱説明書の「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」をご確認のうえご依頼ください。

北海道地区	
札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北２８条ビル
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX 022-257-7330 〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル1F
茨城・栃木地区	
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
群馬・埼玉・新潟地区	
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-8617 〒330-0034　埼玉県大宮市土呂町2-29-2　高安ビル1F
千葉・東京（23区）地区	
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
東京（23区を除く）・山梨地区	
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-32-8040 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
神奈川地区	
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
長野・岐阜・静岡・愛知・三重地区	
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区	
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号
鳥取・島根・ 岡山・広島・山口（下関を除く）地区	
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
徳島・香川・愛媛・高知地区	
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8 西原ビル1F
山口（下関）・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区	
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

■カタログのご請求や製品についてのご相談は、カスタマーグループ(TEL 072-831-8111)へどうぞ。

2000年5月現在　　修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

ONKYO®　　オンキヨー株式会社

SN29358031D

アフターサービスについて

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（RDA-7）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　（　）
メモ：

Integra
RESEARCH

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

アフターサービスのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎03（3861）8121　●大阪サービスセンター　☎06（6576）7620

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/